

防災公開講座(第 37 回「ふじのくに防災学講座」)

平成 23 年 5 月 28 日(土) 10:30 から
静岡県地震防災センター ないふるホール

テーマ 「市民による災害救護訓練のあり方」
講師 青木 克憲 浜松医科大学救急医学講座教授、救急部長(兼)

※ 聴講者数 150名



要約

災害発生直後の超急性期は、助かった者が、隣に倒れている肉親・隣人、あるいは生き埋めから救出した人のけがの処置をしなければならない。公的救助はすぐには来ない。「ひとりでも多くのいのちを助ける」ためには、1. 観察（意識、状態の見極め、トリアージ、災害に特有なケガ）、2. 応急手当（一次救命処置、三角巾や身の回りのものを利用した応急手当、けがの進行を食い止める適切な体位・保温、頭部にけがをした人や墜落した人の頸部固定）、3. 情報の伝達（被災状況、緊急度、傷病経過、個人情報（家族の連絡先）など）、4. けが人の状態を悪化させない安全な搬送方法の4項目を訓練で准体験しておくことが必要である。「命を助ける災害救護訓練」のための標準的なテキストを作成したが、まだ、発展途上なので、多くの市民の方から、ご批判を仰ぎたい。